

例会報告 Rotary



ロータリーは機会の扉を開く

第2638回例会 令和3年4月16日
雑誌・広報委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行高山支店 4F
- 会長 塚 和信
- 幹事 下屋 勝比古
榎坂 純一
- 会報委員長

<会長の時間>

SDGsという言葉が最近よく聞きますが、何のことかご存じでしょうか。Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」の略称です。SDGsは、2015年に国連サミットで採択された、2030年までの長期的な国際社会共通の達成目標です。SDGsは2000年に採択されたMDGs「ミレニアム開発目標」が2015年に達成期限を迎えたことを受けて新たな目標として定められました。MDGsは「極度の貧困と飢餓の撲滅」「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」などが織り込まれていることから分かるように、MDGsは先進国による途上国の支援を中心とする内容でした。しかし、その内容は先進国が決めており、途上国からは反発もありました。進展には地域の偏りなどの「見落とし」があったとも指摘されました。それを受けSDGsは、誰ひとり取り残さないことを目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標で構成されているのが特徴です。



SDGsの「持続可能な開発目標」とは具体的にどのようなものなのでしょうか。「持続可能な開発」とは「将来の世代がそのニーズを満たせる能力を損なうことなしに、現在のニーズを満たす開発」つまり、現在の人々の生活によって、未来の地球環境や人が暮らす社会・経済を壊すような開発をしてはならないということです。そして、SDGsは「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」で構成されています。

SDGsの17目標リスト

1. 貧困をなくす
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤を作ろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリシップで目標を達成しよう

これら17の目標に、それぞれ10程度の具体的な目標があります。

2016年から取り組みがはじまり、5年目の2020年日本のSDGs達成度のランキングは、世界で17位（スコア79.2）でした。17の目標を達成度別に分けると、

達成できている目標

- 4. 質の高い教育をみんなに
- 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 16. 平和と公正をすべての人に

重要課題が残っている目標

- 5. ジェンダー平等を実現しよう
- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 14. 海の豊かさを守ろう
- 15. 陸の豊かさを守ろう
- 17. パートナリシップで目標を達成しよう

重要課題に入っている目標では、具体的に

- ・女性国会議員の数 (9.9%、世界166位)
- ・再生可能エネルギーの割合 (23%)

- ・二酸化炭素 (CO2) の排出量 (世界5位)
 - ・水産資源の乱獲・崩壊
輸入に伴う地上・淡水の生物多様性への脅威
 - ・国民総所得 (GNI) に含まれる政府開発援助 (ODA) の割合
- 新型コロナウイルスがSDGsに与えた影響は**
- ・感染拡大防止のために経済を停滞させたことで、貧困層は特に打撃を受けた
 - ・特に負の影響を受けたのは、目標1・目標2・目標3・目標8・目標10
 - ・経済活動の停止で環境汚染は減少したが、再開に伴い元に戻らないよう対策する必要がある
 - ・今回のパンデミックで、国家・国際規模の健康危機に対する予防・リスク削減・危機管理の重要性が浮き彫りになった
 - ・新型コロナウイルスからの回復に向けて、世界はSDGsを政策の中心に置くことが重要になる
 - ・SDGsの進展が大きかった東アジアと南アジアは、他国より感染対策が優れていた
 - ・グローバル化のメリットを保ちつつ平等性・持続性・耐久性を高めるには国際的な相互協力が鍵になる

中学校や高等学校でも、SDGsについて学び、その取り組みについて話し合い、実際に行動に起こしているところもあります。企業では、挙ってホームページにSDGsの取り組みを掲載しています。企業がSDGsに取り組むメリットは何があるのでしょうか。SDGsの取り組みが取引先や消費者に浸透すれば、企業イメージの向上につながります。企業イメージが良いと、消費者は価格に左右されずに、その企業の商品やサービスを選択してくれます。また、企業イメージが良い企業には優秀な人材が集まりやすく、人手が不足する時代においても採用活動で有利になります。皆さんの会社でも、意識はしていませんが既にSDGsに取り組んでいます。社内でSDGsについて勉強し、新たな取り組みについて話し合い行動し、それを世間にPRすることにより会社のイメージも変わっていくと思います。



<幹事報告>

◎国際ロータリー

日本事務局 より

- ・ベネファクター認証状

および徽章 塚 和信さんへ

- ・マルチプル・ポールハリスフェロー徽章 塚本 直人さんへ

◎ガバナーエレクトより

- ・2021年PETS修了証書

鴻野 幸泰さんへ

<受贈誌>

米山記念奨学会(ハイライトよねやま Vol.252)、美濃加茂RC(会報)、生駒時計店(ロータリーカタログ2021-2022)

例会報告

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
23名	—	23名	36名	63.89%

<本日のプログラム>

雑誌・広報委員会

委員長 松田 康洋

本日は岐阜新聞ひだ高山総局長の森嶋哲也様にお越し頂きました。略歴をご紹介します。

森嶋様は1963年9月岐阜市生まれ。長良高校、岡山大学文学部をご卒業され、1988年に岐阜新聞に入社されました。

本社遊軍（運動担当補助）を経て、89年1月ひだ高山総局赴任。92年4月からは本社運動担当となられ、以後販売局タブロイド紙「ぎふスポーツ」編集担当など運動担当、郡上支局、揖斐支局を経て2015年5月より運動担当デスクとなりました。20年7月にひだ高山総局編集部長となられ、21年1月より局長を兼務されています。

本日は長くスポーツ担当をされてこられたご経験を基に「岐阜県高校野球取材30年よもやま話」と題し卓話いただきます。どうぞよろしくお願いたします。



「岐阜県高校野球取材30年よもやま話」

岐阜新聞ひだ高山総局長 森嶋 哲也 様

① 岐阜新聞報道部の組織と担当・森嶋略歴

私は1988年に岐阜新聞社に入社しました。岐阜新聞は規模の小さなローカルマスコミですので、大きな新聞社のように政治部、社会部、経済部、運動部といった部がありません。文化部のみは存在しますが、本社にはそれぞれ担当記者が2~3人います。報道部の記者は約50人おり、本社勤務のほかに今、私がおります「ひだ高山総局」のように西濃、中濃、東濃、飛騨の各圏域ごとに統括する支社、総局があり、さらに各圏域で数力所の支局があり、管内の政治、経済、事件事故、すべてを担当します。ちなみにひだ高山総局には私のほかに若い記者が2人おり飛騨支局、下呂支局の記者5人で、飛騨全域をカバーしています。

さて、本社には各担当のほか（遊ぶ、遊撃手の遊と書いて軍）の遊軍という部署があり、町ネタから社会ネタ、広告依頼の原稿までこなす何でも屋の役割です。新人はまず、ここに配属されて基礎を教え込まれてから、各地方や担当へと異動します。私もここで、勉強させてもらい、89年、初任地として、当地、ひだ高山総局記者として赴任しました。

異動は1月1日付けだったのですが、引っ越しが完了したのが6日で翌日、目が覚めると昭和天が崩御されており、一般高山市民のコメント取りが高山での最初の仕事でした。

高山には3年3か月お世話になり、本社運動担当になりました。私はさきほど申しました遊軍時代に、運動担当の補助をしておりまして、いわば、復帰です。本紙では、プロ野球はじめ全国的なスポーツは共同通信社から配信される記事、写真を使います。今でこそJ3のFC岐阜がありますが、当時、県内にプロスポーツはなく、取材対象は県内アマチュアスポーツです。FC岐阜も担当者が一人いますが、今でも岐阜新聞のスポーツ担当の取材対象は、アマチュアスポーツが主です。中でも高校野球は今でも変わらず、読者の方の関心が高く、中心となる取材コンテンツです。私はほかに郡上支局や揖斐支局の勤務がありますが、記者人生のほとんどを運動担当で、今回当地に赴任させていただくまで5年間、運動デスクでしたので、岐阜県高校野球取材は30年以上になります。今でも親交が深い岐阜商の鍛冶舎巧監督とは毎日のようにラインでやり取りしています。きょうはその高校野球取材のよもやま話をさせていただきたいと思っています。

② メーン担当最初の 夏の甲子園で甲子園記録の3試合連続サヨナラゲーム

高山勤務から高校野球のメーン担当になった最初の年。夏の岐阜大会を制したのは岐阜商だったのですが、このチームの甲子園での戦いぶりが、忘れられない高校野球取材30年のきっかけをつくったのでした。社会人野球のトヨタ自動車で活躍し、監督として2016年にトヨタを初の都市対抗野球に導いた桑原大輔さんが4番打者なのに1番を務め、バッティング投手だった下手投げの高橋雅己投手がすごい星のように現れて先発。背番号1だった高井公洋が抑えという勝利の方程式で高い戦力で初戦の鹿児島商工（現樟南）、2回戦の熊本工と2試合連続でサヨナラ勝ち。バスト8をかけた3回戦は、今の東邦監督の阪口慶三さんが率いる東邦にサヨナラ負けを喫しました。勝てなかったのには、大きな理由があり、練習試合や東海大会で対戦していることもあり、阪口さんにサインがすべて見破れていたらしいです。主砲の桑原さんも監督の小川信幸さんも今でも口をそろえて、「作戦全部、相手にわかってしまっていたもんな」と話しています。

でも3試合連続のサヨナラ試合は甲子園では1971（S46）年の銚子商（千葉）以来史上2校目。ずっと帯同してきたチームにこんな劇的な試合を目の前で次々に繰り広げられ、高校野球取材のとりこにならないわけはありません。それから担当を外れても岐阜県高校野球の取材を続けています。

例会報告

ちなみにこの年は有名な松井秀喜選手の5打席連続敬遠があり、記者席で現場を目撃しました。敬遠のたびにスタンドからメガホンなどがグラウンドに投げ込まれていたのですが、真っ先に拾いにいったのが、松井選手で、彼の行動に感動したのを今でも覚えています。

また3試合連続サヨナラゲームのチームの控え捕手が今年の県岐阜商の右のエース、選抜でサヨナラ負けを喫した松野匠馬投手の父、文治さん。祖父の勝治さんも岐阜商の夏ベスト4の外野手で、親子代の甲子園。勝治さんは高山市出身とのことです。

さらに翌年も県岐阜商が圧倒的に県内で強かったのですが、決勝で東濃実にまさかのサヨナラ負け。初出場の東濃実は前年、県岐阜商と同じ初戦でサヨナラ負けを喫した鹿児島商工にサヨナラ負け。因縁めいたものを感じます。さらにこのチームのエースの小西智也さんの息子が選抜もベンチ入りした2年の小西彩翔投手。新チームのエースとして期待されています。

いくら劇的な大会とはいえ、結果はベスト16。戦前のことですが、選抜3度、夏1度の優勝を誇り、野球王国といわれた岐阜県。岐阜県がいかにして再び日本一になるかを追いかけるのが、記者としての生涯のテーマになりました。

③ 野球王国と呼ばれた岐阜が、弱小県に

かつて野球王国と言われた岐阜ですが、私が高校野球担当になった当時は、甲子園で1勝できればいい方で、初戦敗退がほとんど。平成に入って平成17年(2005年)まで2回勝ったのは、この3試合連続サヨナラ試合の平成4年の県岐阜商だけでした。

それを象徴するエピソードがあります。春夏通じてコロナ禍で行われた今年の選抜高校野球の組み合わせ抽選は主将によるオンラインで行われました。選抜は通常、主将のみが参加し、一堂に会して抽選会を行うのですが、夏は会場にベンチ入りメンバーがすべて参加する方式で行われてきました。もちろん、コロナ禍で今夏はどうなるかわかりませんが、当時、抽選会で相手校が岐阜代表と初戦のくじを引くと「やった、勝てる」とガッツポーズしていました。さらに選抜は今年県岐阜商が2年連続で出場するなどコンスタントに岐阜県が出場していますが、当時は6年周期と言われ、6年に一度しか選抜に出場できていませんでした。

なぜ弱かったのかというと、一口に言うと、岐阜の野球が遅れていたからです。当然、岐阜が強かった時代は、岐阜の野球が全国のトレンドでした。ですが、徳島の池田高校の蔦監督が革命を起こしたと言われるように昭和後期から平成前半までの高校野球はパワーの時代でした。岐阜にはパワー野球がなく、県代表になるチームもこつこつ点を取って、守り切るレトロな野球でした。平成3年(1991年)に県岐阜商時代に今の鍛冶舎巧監督のチームの監督だった日下部政憲監督が市岐阜商でパワーのチームをつくり、県岐阜商を県内で初めてコールドで破って甲子園に出場しましたが、初戦で明德義塾に大敗しました。明德の馬淵監督が「岐阜のチームはパワーがないですね」とコメントしたのを今でも覚えています。

もちろん、全国の有名私立が全国から有望選手を集め、いい選手による素材型の野球をしている点も岐阜が勝てない大きな理由でした。

甲子園の裏話をしますと、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、ストライクゾーンが広めです。特に夏は一日4試合行われますので、大会本部が考えているのが、スピーディーな試合運びによる運営です。何人かの甲子園出場監督に聞いたのですが、「きょうは進行が特に遅いな」という場合には本部から審判に連絡がいき、状況に応じてさらにストライクゾーンが広がるそうです。当然、試合のテンポも速くなります。ゆったり、たらたらのペースで県大会をしている岐阜県が甲子園で勝てるはずがなかったということです。言い方は悪いですが「岐阜、そんな弱い県はとっとと負けてお帰りください」という場所でした。実際に2006年に岐阜城北が岐阜県春47年ぶり、夏含めても36年ぶりに甲子園でベスト4になりましたが、城北の選手から聞きましたが、大敗した横浜との準決勝で、二塁塁審が横浜高校の校歌を口ずさみ「はよおまえら負けて帰れよ」と言われたらしいです。

このストライクゾーンの広さは当然、常勝監督なら対応するのが常識です。2010年に島袋投手を擁して春夏連覇した沖縄興南高校の我喜屋優監督に聞いたことがあるのですが、普段からストライクゾーンを広めに練習しているそうです。ほとんど放送禁止で笑い話のような教え方ですが、「おまえの家に米兵が弾打ち込んできたぞ、打ち落とせない場所でも死に物狂いで打ち落とせ」とか言って、練習していたそうです。

昨夏の交流試合、今春の選抜と1勝もできていない県岐阜商の鍛冶舎巧監督が言っていました「体力もスピードもパワーも秀岳館と変わらないチームができたのに、大きく違ったのはメンタル。ものおじしない、秀岳館の子に比べ、岐阜の子は大人しすぎる。それが県民性なのかな」と言っていました。今年も昨年も県岐阜商のチームは全国のどのチームと練習試合をやっても遜色なく戦えます。そのチームがこうなのですから、レベルが全国に達していない昭和後期から平成期の岐阜のチームが勝てないはずですよ。

④ 流れを変えた2006年岐阜城北選抜ベスト4

一般的にはこの流れを変えたのは2007年に選抜で準優勝した大垣日大の阪口監督と言われますが、実は前年の2006年の岐阜城北の選抜ベスト4がターニングポイントだと思います。実際に岐阜県の高校として春47年ぶり、夏含め36年ぶりのベスト4でしたが、後に母校も監督としてベスト4に導く藤田明宏監督は、勝てない理由を熟知していました。

もちろんプロ野球ではけがで大成しませんでした。尾藤竜一という岐阜を代表する好左腕がいたからこそその結果であるのは言うまでもありませんが、藤田監督は甲子園の試合ペースに選手にならせようとしました。選抜前に提供された長良川球場での練習で、実際に甲子園入りしてから試合までの流れをシュミレーションし、投手の投球間隔をはじめ、これまでのリズムを一変してテンポの速いリズムでの野球をたたきこみました。もちろん、今では当たり前のデータによる相手校の徹底分析も大きな革命でした。平成初めころまで

例会報告

県岐阜商ですら、甲子園の試合前日にビデオ一本渡され「これ見とけよ」くらいだったと言います。特に藤田監督が県岐阜商で夏ベスト4になった2009年は、連日の徹夜に近いビデオによる相手校の分析が功を奏し、PL 学園、帝京と当時のトップチームを次々に撃破し「データ通りだった」とこっそり教えてくれたのは印象深いです。ただ、準決勝で敗れた日本文理は相手エースの伊藤直輝はデータと全く違ったピッチングだったと言います。

さらに阪口監督が甲子園で勝ち出すと、岐阜の野球レベルは高まりました。まだ、県勢戦後 初V は果たせていませんが、岐阜県の高校野球は確実に暗黒時代を脱しました。

⑤ 印象に残る選手

夏の甲子園100 回大会に当たる2018年に年間通して、岐阜の高校野球をあらゆる角度から振り返り、未来を探る100回連載を、担当の元球児の若い記者と2人で手分けして記事化しました。また、ナンバーという雑誌が地方紙の記者に聞くふさとベストワンの企画があり、頼まれて記事を書きました。名勝負、名選手、レジェンドなどテーマはさまざまでした。

岐阜県の高校野球で一番すごい投手はという企画があり、本紙の連載でも掲載しましたが、戦争で亡くなり、もはや歴史上の人物ですが、戦前の岐阜商に松井栄造というレジェンド左腕がいます。見た人は誰も生きてないと思いますが、本社の杉山幹夫最高顧問は子供のころに見たらしいです。戦前の岐阜県は全部岐阜商ですが春3度、夏1度優勝していますが、このうち3度優勝投手になっています。これまでの記者人生で聞いたり、書物などで知る限り剛速球投手ではなく、いわゆる軟投派で昔ドロップといった大きな縦カーブが武器だったと言います。では剛速球ナンバーワン誰かいうと、いろいろな関係者に聞くと、1970年に岐阜短大付、今の岐阜第一を夏ベスト4に導いた左腕湯口敏彦の名前を挙げる人が多いです。私自身は当然、幼いので見た記憶はなく、残念ながら巨人入り直後になくなりました。「岐阜県最速は湯口さんってみんな言うんですよ」と鍛冶舎巧監督に言うと1 学年上の負けず嫌いの彼は沸き起こって「投げ勝ってるよ、やっつけてる」と自慢げに話します。

今はスピードガンがあるので、県の公式戦最速は今年、中日に入った帝京大可児の加藤翼投手の153^{km/h}です。ですが私が球質ですごいと思ったのは、最速152^{km/h}の県岐阜商高橋純平投手です。30年の高校野球取材の中でもナンバーワンだと思います。なんて言うんですかうなるようにくるんです。そんなわけないですが、よく言う手元で伸びる感じってやつです。高校野球は高速時代に突入していますので、数字も体感もナンバーワンになる投手の誕生に期待しています。

野手ではたくさんの名選手、スラッガーがいましたが、個人的には昨年の選手ですが、県岐阜商の主砲の佐々木泰選手です。飛距離や打球スピードなど彼よりすごい選手は当然、何十人といたでしょうが、すごいと思うのが、ここぞという時に一振り流れを変えられる点です。負けたなという試合を彼の本塁打で流れを変えたのを何度も目にしてきましたし、甲子園の交流試合でも逆転こそなりませんが、最後に特大の一発を放って大きな印象を残しました。彼はプロ

志望届を出さず、東都1部の青山学院に入学しましたが、先日、5日に5番でデビューしました。ネット中継を見ていましたが、2-2の8回に決勝2ランを放ちました。感動して、思わずラインしてしまいましたが、速攻「ありがとうございます。次もがんばります」とかえってきました。次の試合の第1打席にもホームランし、2打席連続の本塁打を放ちました。将来必ずプロで活躍してくれると思います。

ベストゲームとしては県内では2009年に甲子園ベスト4となった県岐阜商岐阜大会準決勝で負け寸前の豪雨による1時間28分の中断からをはさんでからの逆転勝ち。甲子園では3試合連続サヨナラもそうなのですが、2013年選抜3回戦で県岐阜商の藤田凌司投手が右足に受けた死球の痛みを耐えながら投げ抜き、大阪桐蔭の3季連続優勝を阻んだゲーム。相手のホームとも言える甲子園で1球ごとに県岐阜商への声援が高まり、異様な空気に包まれたあの感動は忘れることができません。

⑥ 名物監督

高校野球の見方、好きなところは千差万別だと思いますが私の場合、中でも名物監督と言われる人たちの考え、人心掌握術、組織づくり、人間性に深く興味を持ち、取材してきました。県内はもちろんですが、甲子園では試合が終わるとまず、NHK や主催の朝日放送などの代表インタビューがあります。皆さんも高校野球中継でよく見られる光景です。次にペン記者7分、テレビなど映像取材3分の制限時間で囲み取材をします。なかなか監督は本音をこの場でいいませんので、岐阜県代表校の監督への取材は後から個別に宿舎を訪れ、選手に聞くようにしています。甲子園の取材は県代表校に密着が主なのですが、試合当日は試合2時間前の10分の囲み取材があるだけで、接触できませんので、こうした空き時間や、県代表の敗退後などなるべく、有名監督の囲み取材に加わるようにしています。本音を言わない監督が多いのですが、それでも、試合のポイントや野球への考え方ひいては人生論まで聞けるので、記者としても人としても大いに有益です。有名監督で一番、話がおもしろいのが、明德義塾の馬淵監督です。話におちや笑いところを入れつつ、球数制限やタイブレークなどのトレンドはじめ、自分の見解を明確に話してくれます。大垣日大の阪口監督の話もおもしろいですが、双璧です。最近では健大高崎の青柳監督、明石商の狭間監督もおもしろいです。もう退かれましたが、横浜の渡辺監督、智弁和歌山の高島監督あたりも独特です。逆に全く、本音を言わず、おもしろくないのが、大阪桐蔭の西谷監督です。担当記者もわかっているのか、ある程度聞いた後は一人去り、二人去りという状況なので、岐阜の高校野球や監督について聞いたりする時間があります。もちろん、当たりさわりのないことしか言わないのですが・・・。

⑦ 岐阜県を彩る名物監督

阪口監督は確かに岐阜県の野球を変えました。阪口監督が大垣日大の監督に就任してから、指導の秘密を探ろうと連日通いましたが、ある日私が「いかにすれば岐阜県の高校野球が強くなるのか」をテーマに取材していることがわかったのか「森嶋さん、私は何のために岐阜にきたのだと思います？岐阜を強くするためです」と言い終えないうちに目からすっ

例会報告

一と、一筋の涙が流れ落ちました。「あっ、これか」と確信しました。阪口監督は人の心をつかむのが実にうまく、選手を乗せることにかけては天才的な人です。“阪口劇場“と呼ばれたパフォーマンスです。これこそ阪ロマジックです。もちろん、通い詰めてわかったことですが、これまでに岐阜県の監督とは比べものにならないほど練習量がけた外れです。阪口采配を代表するのが、絶妙なタイミングでのスクイズです。通常、しないタイミングでスクイズを決め、試合の流れを引き込む采配力です。特に3ボールノーストライクからのスクイズは俗に「阪ロカウント」と言われ、スリーバントもお家芸です。それを成功たらしめているのが、すべての練習が終わった後に数力所に分かれて延々と行うバント練習です。どこよりも能力の高い選手を集めてどこよりも猛練習する。強いのは当たり前です。選抜準優勝時に「仏の阪口」と言われましたが、それは選手を頭ごなしにしからないだけです。あれだけの練習をしていたのですから、やはり「鬼」です。

練習量で阪口監督に勝るとも劣らないのが、鍛冶舎巧監督です。公立高校なので確かに私立のような練習時間はさけません。でも、あれだけの密度の濃い練習を積み重ねれば、選手のレベルはいやが上にも上がります。鍛冶舎巧監督は徹底した数値化で目標を高く設定し、クリアすればさらに高い目標を設定する。投球やスイングスピードはもちろん、筋力、走力などあらゆる数値を高め、基礎力でどこにも負けない選手を日々作り続けています。先ほど言ったように 岐阜の県民性によるメンタル面のクリアもありますが、基礎力は全国トップレベルなので、後は対応力です。1球1球、考え、状況に応じて対応する打撃、投球ができれば、鍛冶舎巧監督が掲げる「戦後初V」も夢ではないと思います。

この春は鍛冶舎巧監督就任後、一番高いレベルの選手たちが入学してきました。鍛冶舎巧監督 が県にはたらきかけて実現した県外枠で大阪、兵庫から4人の投打とも優れた選手が入学したのはもちろんですが、県内選手も高いレベルで魅力です。すでに野手では6人が1軍合流していますが、全員スイングスピードが1400*を超えています。選拔出場メンバー が140*を超えるの目標を選抜前に到達しましたが、すでに入学時に達成。能力的にはもちろんですが、意識が先輩たちと比べられないほど高いです。投手も140*に近い選手が多く、かなりの戦力アップが図れそうです。ちなみに春の県大会は2年生投手2人だけを入れて、後はオール3年生がベンチ入り。1、2年は5月まで別チームで練習試合など行い、チームを仕上げ、6月以降、えりすぐりの選手を3年生チームに合流させるのだそうです。

かつて「甲子園出場」が目標だった岐阜県の高校野球。鍛冶舎巧監督によって、確実に「日本一」を現実目標にする県へと生まれ変わりました。鍛冶舎巧監督はじめ、2019年夏ベスト4に導いた橋本哲也監督の中京、甲子園経験豊富な田所孝二監督の岐阜第一と魅力あふれる指導者がけん引する岐阜県高校野球、今後がますます楽しみです。近いうちに岐阜県の学校が日本一になる日は必ず、訪れると確信しています。

<ニコニコボックス>

●堺 和信さん、下屋 勝比古さん

本日お忙しい中ご来訪頂きました岐阜新聞ひだ高山総局長 森嶋 哲也 様を心より歓迎いたします。貴重なお話を楽しみにしています。昨日は快晴の中、桜も少し残っている中で開催された春の高山祭でした。規模は縮小されましたが、いつもよりアットホームな感じがしました。出られた皆様お疲れ様でした。明日の地区協議会に出席の皆様、よろしくお祈りします。

●松田 康洋さん

今日は雑誌広報委員会の担当例会です。岐阜新聞ひだ高山総局長の森嶋 哲也 様にご講話いただきます。森嶋局長、本日はどうかよろしくお祈りします。

●狭土 貞吉さん

先日例会でお話しされた鴻野幸泰会長エレクトの次年度メイン事業計画、私は諸手を挙げて大賛成です。心優しい最適任者、田中武実行委員長の下、全員協力「超我の奉仕」をもって彼らを励まし褒め、力づけ思いやりの心で成功させましょう。

●田中 晶洋さん

本日、結婚記念日のお祝いが届きましたと妻からラインが入り思い出しました、今日が結婚記念日だという事を…。皆様ありがとうございます。

●米澤 久二さん、垣内 秀文さん、向井 公規さん、塚本 直人さん、田中 晶洋さん、杉山 和宏さん、高井 道子さん、中島 一成さん、堀 幸一郎さん

春の高山祭は静かに開催されました。少し淋しい春です。菅総理がアメリカに向けて出発されました。バイデン大統領と会談し、明るい未来を語っていただく事を期待します。

